

Ⅲ. 中国初等中等青年教員招へい計画



1. 中国初等中等青年教員招へい計画

1-1 概要

(1) 目的

「中国初等中等青年教員招へい計画」は、日本と中国の初等中等教育機関の教員の交流を通じ、21世紀に向けて、青少年交流の一層の発展のために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

(2) 実施方法

ア 招へい人数

平成12年度は、120名を同時期に受け入れた。

イ 招へい対象者

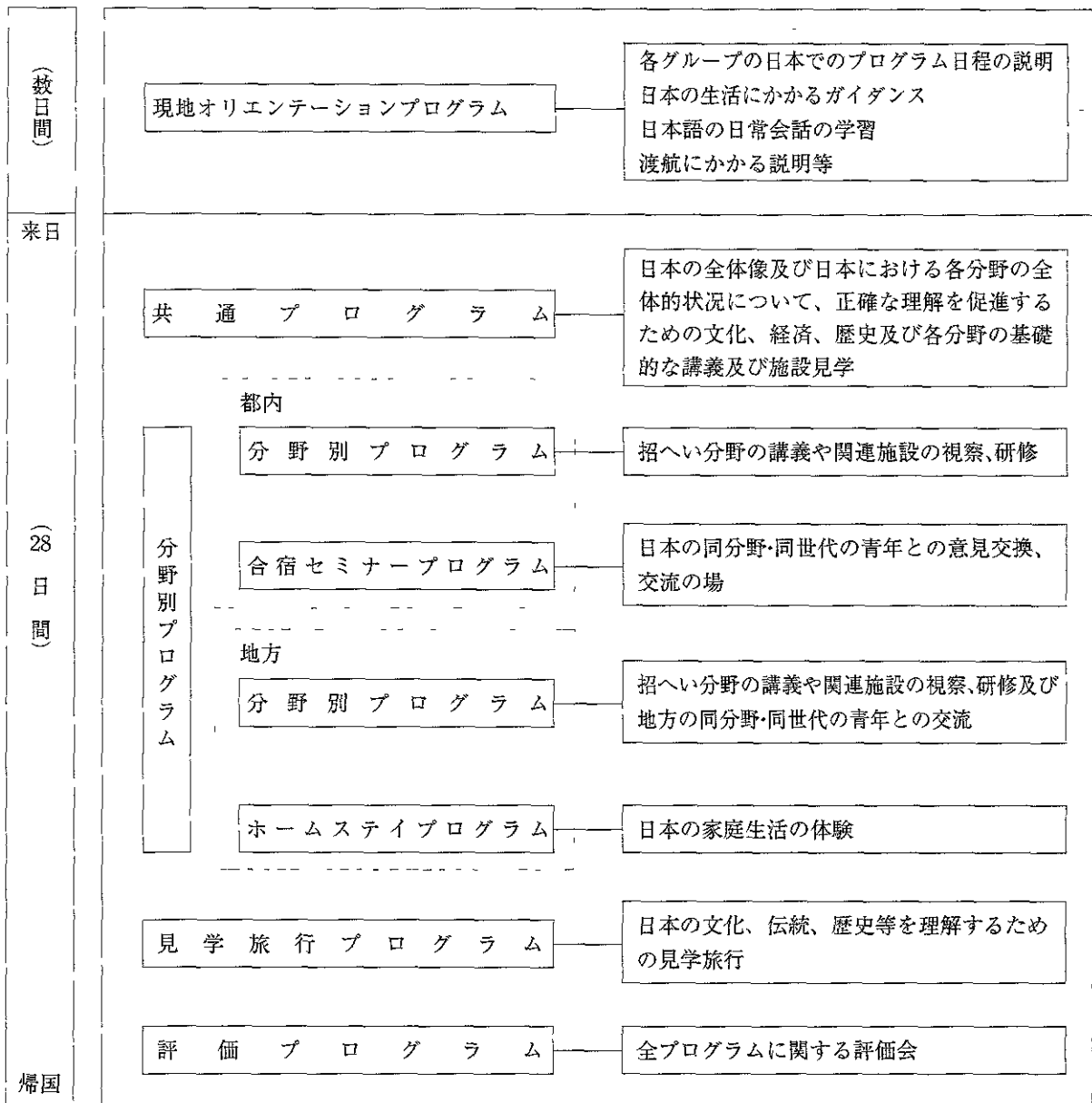
下記分野における指導的立場にある20～35歳の青年。

- (ア) 小学校教員 48名
- (イ) 中学校教員 24名
- (ウ) 高等学校教員 24名
- (エ) 教員 24名

ウ 招へい期間

11月26日から12月16日までの21日間。

(3) プログラム概要



1-2 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
中学校教員1	24	(社)青少年育成国民会議	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議
高等学校教員	24	(財)世界青少年交流協会	福井	鯖江市国際交流協会
小学校教員1	24	(社)勤労厚生協会	鳥取	とっとり青友会
小学校教員2	24	(財)日本ユースホステル協会	福岡	福岡県海外青年招へい事業実行委員会
教員	24	(社)日本中国友好協会	三重	(財)三重県国際交流財団

*共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

分野別プログラム実施都道府県



2. 招へい青年の印象

訪日の感想

彭 曉
(中学校教員1グループ)

私たちの日本に対する総体的な感想は以下のとおりである。

豊かである。日本は経済が発達していて、いろいろな面で自動化がよく進んでおり、国民の教育レベルもかなり高い。

秩序正しい。日本側の受け入れ関係者は全体のプログラムを順序よく、緊密に手配してくださった。時間配分は分刻みで計算されている。実にたいしたものである。

静かである。

きれいである。

教育の面について、日本は学科間につながりを持たせること、技術教育および障害児教育を重視している。これは私たちが学ばなければならないことである。

一方、中国は基礎知識と基本技能の教育を重視しているので、これは日本にとっては、手本になることではないかと思う。また、中国教師は経済面では日本の教師に及ばないが、私たちは社会全体から尊敬されていることを誇りに思っている。

日本人の均一意識と問題意識

馮 志剛
(高等学校教員グループ)

訪日前、日本についての知識は断片的で浅いものだった。3週間の滞在で、各方面の日本人に接し、日本に対してかなり理解を深めることができた。均一性を重視し、一人ひとりが自ら進んで自分のやるべきことをきちんとやるようにさせ、怠惰に流れることを自制させる。これらのことは日本の教育が最も成功した点かもしれない。

このような教育があったからこそ、日本の経済が発展を遂げ、国民が自信を持って、より更なるものを求める向上心と原動力を持ち得たのであろう。このような意識を持ち、なおかつ、こうして現在享受している素晴らしいものは簡単に築かれたものではないことを熟知しているからこそ、多くの中高年の人々が強い危機意識を抱くのかかもしれない。全力で仕事に取り組み、現状に甘んじることなく常に問題意識を持ってこそ社会は絶え間なく発展できると、すべての人が考えている。

これは確かに素晴らしい民族である。

日本の教育からの啓発

陳 軼娟
(小学校教員1グループ)

21日間にわたるハードではあるが、充実した教育交流が間もなく幕を閉じようとしている。最も印象深かったことは、日本政府が教育に、その力を余すことなく、注いでいることである。

教師の選抜方法は厳しくかつ科学的である。教師たちにも絶えずさまざまな研修に参加するように求め、最大限にその潜在能力を引き出させることにより、質の高い教師を生みだし、日本を教育立国の道を歩ませ、確固たる基礎を作り出したのである。

学校の基礎建設を強力に支持し、都会の学校であれ田舎の学校であれ、環境は美しく、設備は先進的で素晴らしい学習環境を作り出しているのである。「少子化」「いじめ」等の問題については、たいへん重視しており、突っ込んだ研究をし、対策を講じ、直ちに解決している。それらは私たちに貴重な経験を与えてくれた。

学校は国の動脈である。両国の教育に携わる者が同じ事業に共にベストを尽くしていくことを願ってやまない。

随想録

王 文麗
(小学校教員2グループ)

21日間の研修により、日本を理解する機会を得られた。日本の輝かしい文化や歴史、科学技術の発展、人々の素朴で温かい気持ちは忘れ難い印象を残した。

最も思い出に残っているのは日本青年との合宿セミナーである。共に温泉につかり、ゲームをしたり歌や踊りを楽しみ、杯を交わしながら、眼差しや微笑み、そして身振り手振りで気持ちを伝え合った。この時私は「人の気持ちは素直なものだ。素直なものこそが最も美しいのだ」と深く感じ入った。

私は、世界の青年が手を取り合い、世界の隅々まで平和の光で満たされることを強く望んでいる。

21世紀はアジアの時代である。日中の青年はその模範となり、友情、平和そして発展という架け橋となるべきである。

交流をすすめ、友情を深め、共に21世紀へ向かおう

馬 輝平
(教員グループ)

相互に理解し、相互に信頼し、相互に学習し、友情を深め、共に発展することは私たちの共通の願いである。日本は美しい自然と、さまざまな伝統を持つ国である。

今回、見学や訪問、合宿セミナー、ホームステイ等を通じて、私たちは日本の教育現状を学ぶことができた。また同時に、日本人も中国の改革開放に対する理解を深めてくれたと思う。

日本の現代的な教育施設や身体障害者のための先進的な学校教育についても強く印象に残った。

また、技術家庭科目、生徒の自立を促す教科や剣道等の民族の伝統を残した体育科目は、私たちが学ぶべき点である。

双方はさまざまな部分でいろいろな相違があるが、しかし、私たちは共に21世紀に向かって、世界の平和発展のために、そして科学進歩のために、人材を育成すべき任務がある。

日中人民の友情と文化交流のために共に貢献しようではないか！

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

高校教員グループとの 合宿セミナーに参加して

横堀 新一
(教員)

さわやかな中国青年たち

真鍋 澄子
(教員)

「誰が中国人で、誰が日本人なのか分からない」という声があがるなか、私たちはあたかも旧友が再会したかのように、歓迎会でともに食事をしていた。

片言の中国語、英語、そして日本語を交えての私たちの輪はあっという間に膨らんだ。

想像していた以上にフレンドリーな中国青年は、すぐに打ち解け、彼らには内緒で用意した誕生パーティーに、「まるで故国にいるみたい」とうれしい感想を漏らした。

隣国の中国教員の、日本の教育全般に対する知的欲求は非常に高く、細かい点まで質問され、このプログラムに参加したチャンスを十分に生かそうという熱い思いがくみ取れた。

討論会での質疑応答にペンを走らせる彼らの姿は、明日の力強い中国を担っていく子供たちを豊かに育てていくことだろう。

合宿セミナーに参加して感じたことは、中国青年の活力だった。教育が国家をつくることを考えると、中国の豊かな将来性が強く感じられた。参加した青年の真剣な態度と、真摯な行動には目を見張った。少しでも多くのことを学び、中国のために役立てようとする気迫を感じた。

人間と人間がその言葉の障害を乗り越えて、新しい関係を創造していこうとする姿勢があれば、明るい未来が築けると思われる。次の世代の人間を育てる役割を担っている両国の青年が、素直に意見交換することができたことで、大いに意義があったと思う。

これからは、もっと中国語を学び、彼らの言葉で話をする必要性を痛感させられた。また、中国についての学習の必要性も同様に感じた。

合宿セミナーに参加して

大平 眞史
(公務員)

和やかな雰囲気の中、交流の夕べの会場にさわやかな歌声が響き渡った。中国と日本の教員が、中国語で一緒に歌った「花」。この歌声が、今回の合宿セミナーの充実ぶりを物語っていた。

合宿セミナーに参加することになり、最近の中国の教育改革について資料で調べてみて、驚いた。知

識重視の受験偏重教育を克服するために取り組んでいる中国の教育改革と、多くの子供が学びから逃避しているといわれている状況の日本の教育改革とがあまりにも似ていたのである。この共通の課題をもって臨んだグループディスカッションでは、お互いの熱い思いが語られ、予定されていた時間では足りないほどだった。

そのなかで、「教師という仕事は、最も輝きがあり、やりがいがある仕事である」と自信に満ちて話していた中国教員の話は、参加した日本の教員に元気と誇りを与えてくれたと確信する。

これまで、物理的な距離よりはるかに遠く感じていた中国を、近くて近い国として実感することができた。

この貴重な機会を提供してくださったJICAと(社)勤労厚生協会の皆様に心から感謝します。

4. ホストファミリーの思い出

コミュニケーションはハート

同じアジアの仲間たち

向井 典子
(三重県)

服部 ゆう子
(福岡県)

ホストファミリーになるのは何回目だろうか。
「どんな人かな」と家族全員がワクワクし、娘たちもウエルカムボードや土産づくりにと、生き生きしている。

中国の王さん。私と主人と同じ、小学校の教師である。ステイ期間中は、教育について筆談などもあったが、「福岡歴史の町」での体験を通して、中国から日本に伝わってきたものなどを、お互いに学び合えた。

タイの友人たちもわが家に来て、中国、タイ、日本の料理をお互いに教え合い、作っての大パーティーとなった。

ほんの短い時間であったが、以前からの友人のように仲良くなった。

同じアジアの仲間たち。別れはつらいが、今度は王さんの国、中国での再会を約束して、たくさんの思い出を心の中の1ページに記す。

また会う日を楽しみに、お互い仕事に励む。

私たち家族は全く中国語が話せないが、鮑さんをホームステイに受け入れて、とても楽しい時を過ごすことができたことをうれしく思っている。

彼は期待したとおりの好青年で、お互い相手を思いやる気持ちが通じ合い、私たち家族は不思議と緊張せず、もてなすほうの気持ちが楽だった。

また、私たちと年齢、家族構成が近いのに加え、コンピューターの教師ということで、話がよく合い、共感したり、中国の先進性にびっくりしたりと、興味深い話ができただ。中国が近い国に感じられた。

コミュニケーションの手段は、片言の英語、次に筆談。言葉はストレートに通じないけれど、相手を思いやる気持ち、理解しようという気持ちがあれば、たとえ違った生活環境であってもハートが通じる。それを実感することができたのは、私たちにとってもいい経験だった。

この縁を大切にしていきたいと思う。

実績資料

1. 実績一覧

(1) 「新日中青年の友情計画」実績一覧

●平成8年度(100名)

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	25	(財)日本ユースホステル協会	宮城	宮城県ユースホステル協会
経済青年	25	(社)日本経済青年協議会	長崎	長崎県世界青年友の会
公務員	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	福井	武生市国際交流協会
教員	25	(財)日本国際協力センター	兵庫	(財)兵庫県青少年本部

●平成9年度(100名)

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	25	(財)日本ユースホステル協会	宮城	宮城県ユースホステル協会
経済青年	25	(社)日本経済青年協議会	徳島	徳島県日中青年交流協会
公務員	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	岩手	(財)岩手県国際交流協会
教員	25	(社)国際交流サービス協会	栃木	(財)栃木県青年会館

●平成10年度(100名)

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	25	(社)青少年育成国民会議	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議
経済青年	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	石川	小松市国際交流協会
公務員	25	(財)世界青少年交流協会	徳島	徳島県日中青年交流協会
教員	25	(社)国際交流サービス協会	富山	(財)とやま国際センター

●平成11年度(100名)

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	25	(社)青少年育成国民会議	大阪	(財)大阪府青少年活動財団
経済青年	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	富山	(財)とやま国際センター
公務員	25	(財)日本ユースホステル協会	三重	(財)三重県国際交流財団
教員	25	(財)日本友愛青年協会	徳島	徳島県青年海外派遣の会

●平成12年度(100名)

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	25	(社)青少年育成国民会議	徳島	徳島県日中青年交流協会
経済青年	25	(社)国際善隣協会	群馬	(財)群馬県国際交流協会
公務員	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	富山	(財)とやま国際センター
教員	25	(財)日本友愛青年協会	高知	高知希望工程基金会

*共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

(2) 「新中国実務者招へい計画」実績一覧

●平成8年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
産業基盤整備	25	(財)世界青少年交流協会	山口	世界青年徳山友の会
経済開発	25	(社)勤労厚生協会	栃木	栃木県外国青年招へい事業実行委員会
地域振興	25	(財)日本国際協力センター	鳥取	とっとり青友会
人材育成	25	(社)青年海外協力協会	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議

●平成9年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
産業基盤整備	25	(財)世界青少年交流協会	兵庫	(財)兵庫県青少年本部
経済開発	25	(社)勤労厚生協会	鳥取	とっとり青友会
地域振興	25	(社)青年海外協力協会	北海道	十勝インターナショナル協会
人材育成	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議

●平成10年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
産業基盤整備	25	(財)日本国際協力センター	岡山	(財)岡山県国際交流協会
経済開発	25	(社)勤労厚生協会	三重	(財)三重県国際交流財団
地域振興	25	(財)世界青少年交流協会	長崎	長崎県世界青年友の会
人材育成	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	北海道	十勝インターナショナル協会

●平成11年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
産業基盤整備	25	(社)青少年育成国民会議	石川	(財)石川県ユースホステル協会
経済開発	25	(社)勤労厚生協会	大阪	(財)太平洋人材交流センター
地域振興	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	徳島	徳島日中青年交流協会
人材育成	25	(社)国際善隣協会	滋賀	滋賀県青年団体連合会

●平成12年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
人材育成	25	(財)日本ユースホステル協会	京都	(財)京都ユースホステル協会
経済開発	25	(社)青少年育成国民会議	熊本	熊本県青年海外協力協会
地域振興	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	大阪	(財)大阪府青少年活動財団
産業基盤整備	25	(社)国際善隣協会	群馬	群馬県世界青年友の会

*共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

(3) 「中国初等中等青年教員招へい計画」実績一覧

●平成11年度 (120名)

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
小学校教員 1	24	(社)勤労厚生協会	鳥取	とっとり青友会
小学校教員 2	24	(財)日本ユースホステル協会	宮城	宮城県ユースホステル協会
中学校教員	24	(社)青少年育成国民会議	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議
高等学校教員 1	24	(社)青年海外協力協会	愛媛	愛媛県青年海外協力協会
高等学校教員 2	24	(財)世界青少年交流協会	長崎	長崎県世界青年友の会

●平成12年度 (120名)

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
中学校教員 1	24	(社)青少年育成国民会議	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議
高等学校教員	24	(財)世界青少年交流協会	福井	鯖江市国際交流協会
小学校教員 1	24	(社)勤労厚生協会	鳥取	とっとり青友会
小学校教員 2	24	(財)日本ユースホステル協会	福岡	福岡県海外青年招へい事業実行委員会
教員	24	(社)日本中国友好協会	三重	(財)三重県国際交流財団

* 共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

2. 平成12年度青年招へい実績一覧

受入時期 陣・人数	国名	分野	人数	都内実施協力団体	実施県	地方実施協力団体
5月10日 } 6月6日 1陣74人	フィリピン フィリピン フィリピン	教員(理数科教育) 農業(水産業) 中小企業経営	23 23 28	(財)世界青少年交流協会 日本青年団協議会 社勤労厚生協会	長野 愛媛 山梨	長野県世界青年友の会 愛媛県青年海外協力協会 社青少年育成山梨県民会議
5月17日 } 6月13日 2陣100人	中国 中国 中国 中国	青年指導者 経済青年 公務員 教員	25 25 25 25	社青少年育成国民会議 社国際善隣協会 財ユースワーカー能力開発協会 財日本友愛青年協会	徳島 群馬 富山 高知	徳島県日中青年交流協会 財群馬県国際交流協会 財とやま国際センター 高知希望工程基金会
5月17日 } 6月13日 3陣88人	バブアニューギニア バブアニューギニア 太平洋混成 太平洋混成 太平洋混成	教育(初等教育) 地域開発(経済) 社会開発(教育) 経済開発 環境保全	15 15 23 19 16	社国際交流サービス協会 財世界青少年交流協会 社日本経済青年協議会 財日本ユースホステル協会 社青年海外協力協会	石川 静岡 岡山 石川 島根	小松市国際交流協会 沼津国際交流協会 財岡山県青年館 財石川県ユースホステル協会 財しまね国際センター
5月24日 } 6月20日 4陣88人	ヴェトナム ヴェトナム インドネシア インドネシア	教育 公務員 教員(理数科教育) 農業(水産業)	22 21 23 22	財ユースワーカー能力開発協会 財日本ユースホステル協会 社勤労厚生協会 社青年海外協力協会	宮崎 宮城 群馬 山形	財ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部 宮城県ユースホステル協会 アセアン青年招へい事業館林市実行委員会 山形県青年海外協力協会
5月31日 } 6月27日 5陣69人	タイ タイ タイ	中小企業経営 教員(小学校教員) 農業(水産業)	23 23 23	社勤労厚生協会 財日本国際協力センター 社日本経済青年協議会	北海道 香川 大分	とまこまい国際交流センター 財香川県国際交流協会 大分県海外協会
6月7日 } 7月4日 6陣50人	バングラデシュ カンボディア カンボディア	教員(中等理数科教員) 農業(流通) 公務員(行政改革)	20 15 15	社駒ヶ根青年会議所 社青少年育成国民会議 社日本経済青年協議会	長野 北海道 広島	社駒ヶ根青年会議所 青年海外協力協会北海道OB道東支部 広島YMCA
6月21日 } 7月18日 7陣82人	アセアン混成 アセアン混成 アセアン混成	教育行政 保健衛生(保健医) 社会福祉(児童青少年福祉)	26 28 28	社日本国際生活体験協会 財国際看護交流協会 財札幌国際プラザ	岐阜 長野 北海道	岐阜県世界青年友の会 財国際看護交流協会 財札幌国際プラザ
7月5日 } 8月1日 8陣90人	韓国 韓国 韓国 韓国	青年指導者 公務員 勤労青年(技術系) 教員(養護学校) 学生(理工系)	23 21 22 24	社日本経済青年協議会 財日本ユースホステル協会 社国際交流サービス協会 財世界青少年交流協会	長崎 徳島 埼玉 滋賀	長崎県世界青年友の会 徳島県青年海外派遣の会 上尾市国際交流協会 滋賀県青年団体連合会
7月12日 } 8月8日 9陣84人	フィリピン フィリピン ヴェトナム ヴェトナム	行政(中央行政) 地域振興 経済 農業	20 21 22 21	財世界青少年交流協会 社勤労厚生協会 財ユースワーカー能力開発協会 社青年海外協力協会	新潟 山口 大阪 茨城	財新潟県国際交流協会 財山口県国際交流協会 財太平洋人材交流センター 茨城県外国青年招へい事業実行委員会
7月12日 } 8月8日 10陣46人	タイ タイ	行政(中央行政) 地域振興(地域社会開発)	23 23	財日本国際協力センター 社勤労厚生協会	北海道 愛知	社滝川国際交流協会 ジャパンヤングサークル東海支部
8月16日 } 9月12日 11陣66人	ラオス マレーシア マレーシア	地域開発 行政(中央行政) 農業(水産業)	20 25 21	財岩手県国際交流協会 財日本国際協力センター 社青年海外協力協会	岩手 青森 鹿児島	財岩手県国際交流協会 青森県青年海外協力協会 財鹿児島県国際交流協会
8月16日 } 9月12日 12陣72人	パキスタン アセアン混成 アセアン混成	医療(医師) 経済(貿易) 科学技術	20 28 24	財国際看護交流協会 社青少年育成国民会議 財豊川市国際交流協会	香川 福岡 愛知	香川県青年海外派遣の会 社九州・山口経済連合会 財豊川市国際交流協会

受入時期 陣・人数	国名	分野	人数	都内実施協力団体	実施県	地方実施協力団体
8月23日 9月19日 13陣52人	アセアン混成	環境保全(自然環境保全)	28	釧路市海外青年招へい事業実行委員会	北海道	釧路市海外青年招へい事業実行委員会
	アセアン混成	公共・公益事業(通信)	24	(社)国際交流サービス協会	富山	富山県世界青年友の会
10月11日 11月7日 14陣100人	中国	人材育成	25	(助)日本ユースホステル協会	京都	(助)京都ユースホステル協会
	中国	経済開発	25	(社)青少年育成国民会議	熊本	熊本県青年海外協力協会
	中国	地域振興	25	(助)ユースワーカー能力開発協会	大阪	(助)大阪府青少年活動財団
	中国	産業基盤整備	25	(社)国際善隣協会	群馬	群馬県世界青年友の会
10月25日 11月21日 15陣40人	ミャンマー	教育	20	(社)日本国際生活体験協会	岡山	岡山県世界青年友の会
	サウディ・アラビア	教員(小中高教員)	20	(社)青年海外協力協会	栃木	(助)栃木県青年会館
11月8日 12月5日 16陣59人	スリ・ランカ	教育(小中高教員)	10	(助)日本ユースホステル協会	静岡	(助)静岡県国際交流協会
	ブータン/モルディブ	教育(小中高教員)	9	(助)愛知県国際交流協会	愛知	(助)愛知県国際交流協会
	ネパール	教育(社会科教員)	10	(社)国際交流サービス協会	佐賀	佐賀ユネスコ協会
	インド	教育(理数科教員)	30	(助)世界青少年交流協会	山口	世界青年徳山友の会
11月23日 12月20日 17陣61人	アフリカ(仏語圏)	女性教員	19	(助)世界青少年交流協会	和歌山	(助)和歌山県青少年育成協会
	アフリカ(仏語圏)	理数科教員	20	(社)日本経済青年協議会	岡山	津山と世界を結ぶ会
	アフリカ(仏語圏)	保健衛生	22	(助)大阪府国際交流財団	大阪	(助)大阪府国際交流財団
11月26日 12月16日 18陣120人	中国	中学校教員1	24	(社)青少年育成国民会議	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議
	中国	高等学校教員	24	(助)世界青少年交流協会	福井	鯖江市国際交流協会
	中国	小学校教員1	24	(社)勤労厚生協会	鳥取	とっとり青友会
	中国	小学校教員2	24	(助)日本ユースホステル協会	福岡	福岡県外国青年招へい事業実行委員会
	中国	教員	24	(社)日本中国友好協会	三重	(助)三重県国際交流財団
1月10日 2月6日 19陣71人	インドネシア	中小企業経営	24	(助)日本ユースホステル協会	福島	福島県青年海外派遣友の会
	インドネシア	行政	23	(助)日本国際協力センター	奈良	(社)まちづくり国際交流センター
	インドネシア	地域振興	24	(社)青年海外協力協会	北海道	十勝インターナショナル協会
1月18日 2月14日 20陣99人	中央アジア混成	経済	24	(社)青少年育成国民会議	北海道	北海道YMCA
	コーカサス混成	経済	15	(助)日本ユースホステル協会	大阪	(助)北海道ユースホステル協会
	モンゴル	地方行政官	10	(助)世界青少年交流協会	福井	(助)福井県国際交流協会
	中南米混成(英語)	社会福祉	20	(社)日本国際生活体験協会	沖縄	(助)沖縄県国際交流人材育成財団
	中南米混成(西語)	小中学校教員	30	(社)青年海外協力協会	福岡	(社)青年海外協力協会九州支部
1月18日 2月14日 21陣72人	マレーシア	中小企業経営	25	(社)勤労厚生協会	千葉	(助)千葉県国際交流協会
	マレーシア	教員(理数科教育)	25	(社)国際交流サービス協会	兵庫	(助)兵庫県青少年本部
	マレーシア	地域振興	22	(社)日本経済青年協議会	広島	しょうばら国際交流協会
1月24日 2月20日 22陣75人	アフリカ(英語圏)	女性教員	25	(助)世界青少年交流協会	福島	にほんまつ地球市民の会
	アフリカ(英語圏)	理数科教員	27	(社)青少年育成国民会議	京都	(社)青年海外協力協会近畿支部
	アフリカ(英語圏)	保健衛生	23	(社)青年海外協力協会	愛媛	(助)愛媛県国際交流協会
合計	75グループ 115カ国・地域 1,658人	カンボディア(40) インドネシア(151) ラオス(30) マレーシア(153) ミャンマー(30) フィリピン(150) タイ(150) ヴィエトナム(100) 東ティモール(2) 太平洋14カ国・地域(88) 中国(320) 韓国(90) 南西アジア7カ国(99) モンゴル(10) アフリカ42カ国(136) 中南米31カ国(50) サウディ・アラビア(20) 中央アジア5カ国(24) コーカサス3カ国(15)				

青年邀请计划

前 言

“青年邀请计划”是国际协力事业团(JICA)对发展中国家所开展的技术合作的内容之一。邀请将来成为建设国家栋梁之材的青年来我国,并根据各专业进行为期一个月的访问活动。其目的在于了解各领域的实际情况,同时通过与民宿家庭等广泛交流加深相互理解,培育信赖关系与友谊。

被邀请的国家也从当初的东盟六国扩大到现在的一百二十个国家、地区以上,自一九八四年本计划开始以来,十七年中应邀访问日本的青年达到二万一千五百零七名。这与各方面有关人士的大力协助和热情支持是分不开的。在此,我谨向各位表示由衷的谢意。

本报告以访日青年、参加合宿研讨会的日本青年以及全国各地民宿接待家庭的各位的感想为主,综合记录了访日青年的活动内容。如本报告能为本事业的进一步发展起到借鉴作用,并为各位留下一个美好回忆,我将感到不胜荣幸。本报告将寄给本年度所有应邀来访的青年和各国的有关人士留念。

最后,我再次向寄来热情洋溢的感想和宝贵意见的各位及有关方面人士表示深深的谢意,为使“青年邀请计划”的交流内容更富有意义,今后还望各位给予大力支持与合作。

国际协力事业团
国内事业部
部长 今津 武
二〇〇一年三月

目 录

前 言

一、新中日青年友谊计划

一、新中日青年友谊计划

1-1 概要 ····· 61

1-2 计划实施情况 ····· 62

二、应邀青年的感想····· 65

三、参加合宿研讨会的日本青年的感想····· 67

四、民宿主人的感想····· 69

二、新中国基层工作人员邀请计划

一、新中国基层工作人员邀请计划

1-1 概要 ····· 73

1-2 计划实施情况 ····· 74

二、应邀青年的感想····· 77

三、参加合宿研讨会的日本青年的感想····· 79

四、民宿主人的感想····· 81

三、中国初等中等青年教员邀请计划

一、中国初等中等青年教员邀请计划

1-1 概要 ····· 85

1-2 计划实施情况 ····· 86

二、应邀青年的感想····· 89

三、参加合宿研讨会的日本青年的感想····· 91

四、民宿主人的感想 ····· 93

实施情况等资料

1. 迄今为止实施的青年邀请计划一览表

(1) 新中日青年友谊计划····· 97

(2) 新中国基层工作人员邀请计划····· 98

(3) 中国初等中等青年教员邀请计划 ····· 99

2. 2000年度青年邀请计划实施情况一览表·····100

一、新中日青年友谊计划



一、新中日青年友谊计划

1-1 概 要

(1) 目 的

“新中日青年友谊计划”的目的是，为了面向21世纪，中日两国分享更好的未来、和平和繁荣、通过日本与中国青年的交流，增进相互之间的理解和信赖。

(2) 实施方法

A 邀请人数

2000年度一次邀请100名青年

B 邀请对象

在以下各领域里从事领导工作的20~35岁的青年

(i) 青年工作者 25名

青少年活动有关工作人员、大学职员、公务员、翻译

(ii) 经济青年 25名

企业等干部 职工、公务员、团体职员、新闻工作者、经济学者

(iii) 公务员 25名

除了其它三个分团领域以外的一般公务员、团体职员

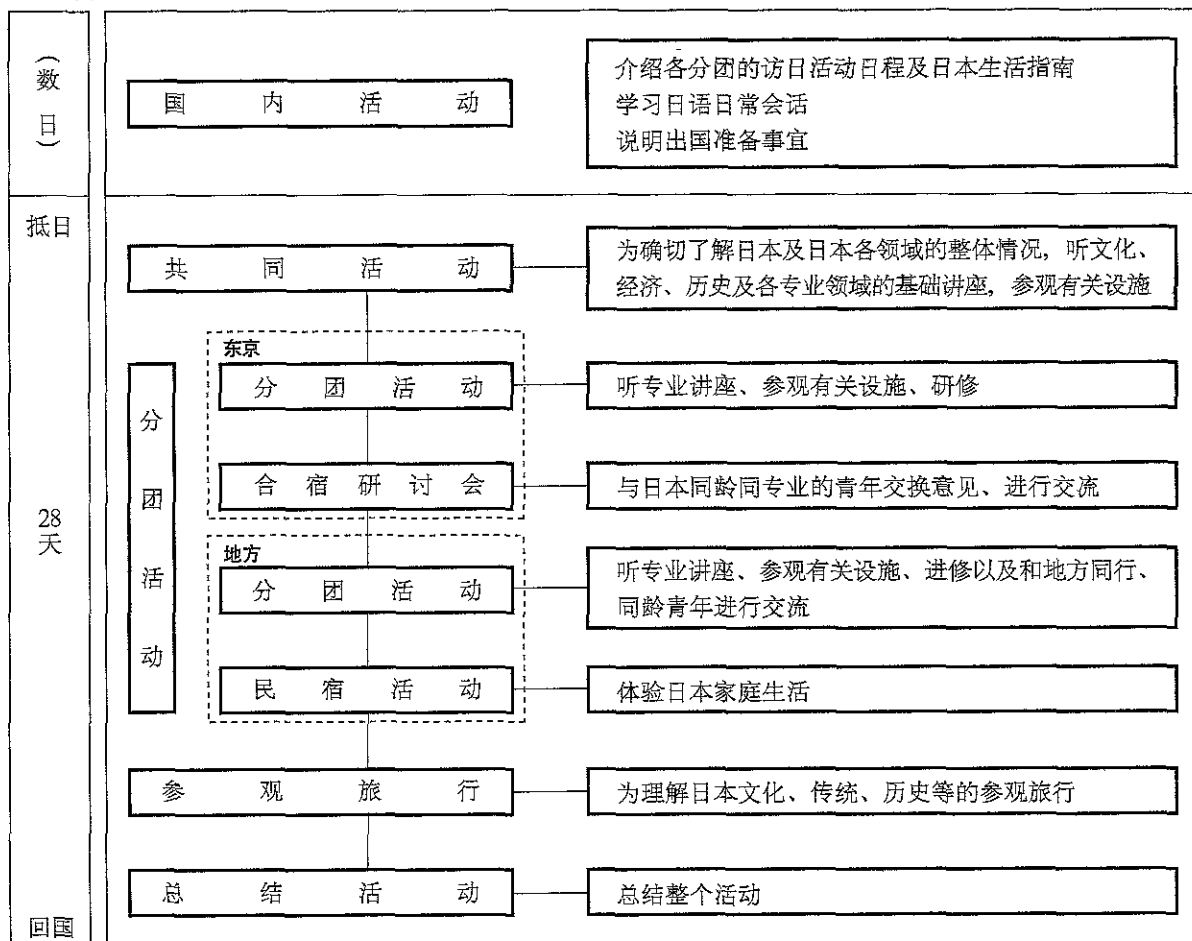
(iv) 教员 25名

教育机关的教员、教育有关的公务员

C 邀请日期

5月17日~6月13日 28天

(3) 日程概要

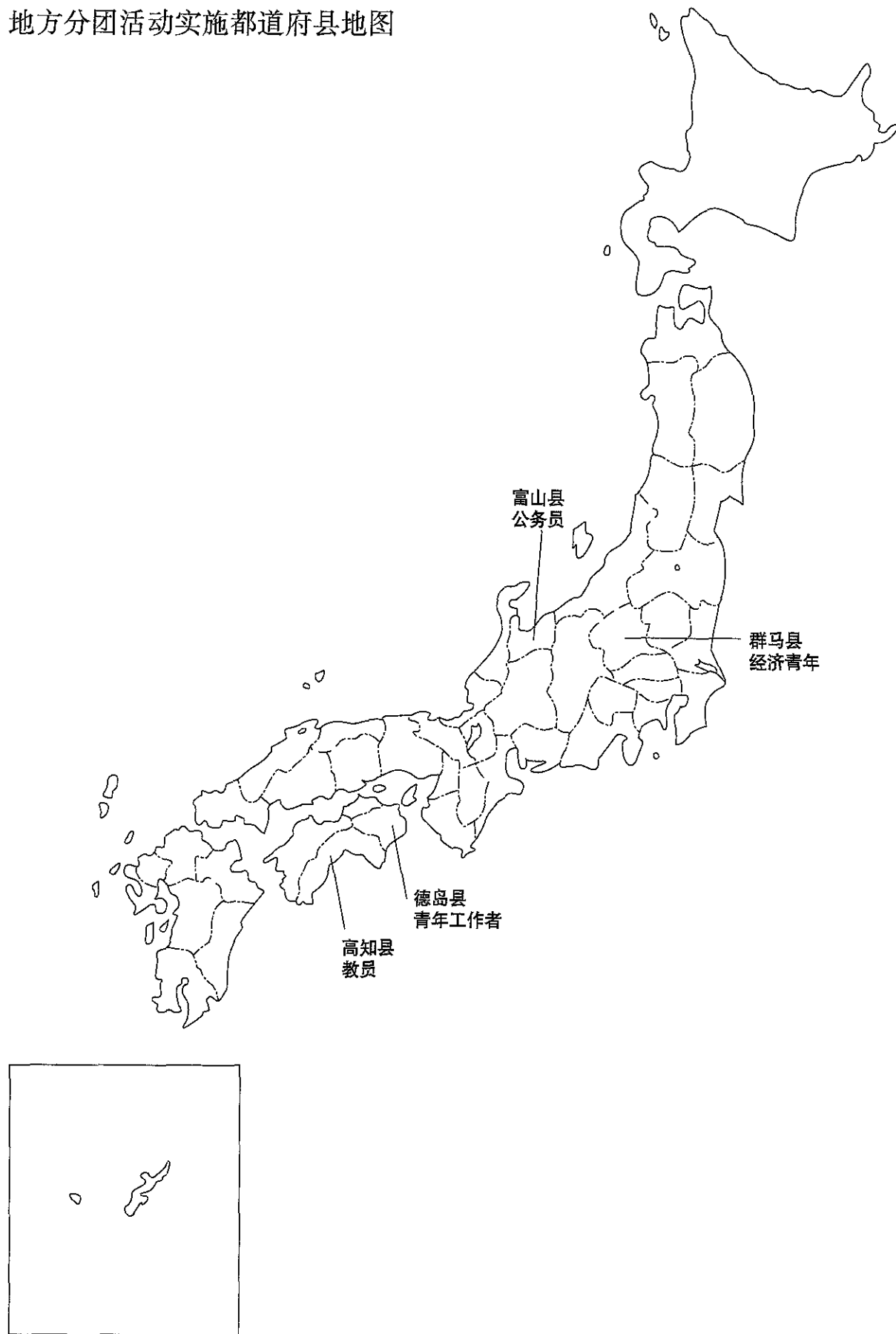


1-2 计划实施情况

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	25	(社)青少年育成国民会议	德 岛	德岛县日中青年交流协会
经济青年	25	(社)国际善邻协会	群 马	(财)群馬县国际交流协会
公 务 员	25	(财)青年工作者能力开发协会	富 山	(财)富山国际中心
教 员	25	(财)日本友爱青年协会	高 知	高知希望工程基金会

*日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动。

地方分团活动实施都道府县地图



二 应邀青年的感想

恪守契约:现代化的基石——访日有感

王锐
(青年工作者分团)

日本高度的现代化令人钦佩。众所周知,人的现代化是社会现代化的前提。来日本一月,我似乎找到了“人的现代化的标志是什么?”这一问题的答案。那就是植根于品格中的一种高度自觉——恪守契约。

青少年的素质教育不是靠专门的机构或活动解决的,而是在严格的规范训练中完成的。在这种规范中形成自觉,从而达到对社会公认约定的认同遵守。

工作中所体现出的效率、敬业归结为一点就是对合同的遵守。日本青年极度张扬的个性并未影响他们的工作状况,究其因,是对劳动约定的认同遵守。

大到守法,小到自动扶梯靠左侧站立,无不体现出公众对约定的服从。哪怕这种约定是习惯也认同遵守。

日本人力资源作用的充分发挥,从根本上看得益於恪守契约。

我更觉得卢梭及其《社会契约论》的伟大。正在为现代化而奋斗的中国青年,恪守契约是我们必须着力培养和确立的品格。

民宿感受

于彦平
(经济青年分团)

如果把日本之行比作一部激越、振奋的进行曲,那么民宿活动则是其中跳跃而出的华彩,它自然、欢快、

亲切、流畅,带给我回家的舒展与平和,也带给我纵有万语千言尽在不言中的新奇与感动。

怀着期待,我走进了细野明子女士的家,结识了她的家人,更结识了日本人民对中国青年热忱欢迎的真挚情谊。

短短两天,在这个并不富有、却溢满温情;并非显赫、却饱含智慧的家里,主妇明子,把对家庭的关爱和对人类的关爱有机地融汇在一起,勤奋劳作不求索取,孜孜以求真诚面对,质朴而充实,仁爱而聪慧,使我觉得,日本正是因为有了明子这样的女性而显得柔情似水,美好深厚。

从此,不论置身何处,我都不会忘记日本前桥官地町——那里有一个我渴望再一次回归的家。

发展经济不能以牺牲环境为代价

吕刚
(公务员分团)

参加中国青年友好访日团到日本研修、参观和访问,日本人民对中国人民的友好感情以及日本的基础设施建设和环境保护工作给我留下了深刻的印象。今天的日本,到处山清水秀、绿树成荫、交通发达、通讯便利,在这样的环境下生活、工作和学习是一种美的享受,但日本人为了拥有今天的环境却付出了沉重代价。

我们中国,近年来经济有了很大发展,人民生活水平显著提高,但基础设施建设相对滞后,环境问题非常突出,在向现代化迈进的征途中,特别是当前进行的西部大开发,要尽量避免经济发展对环境造成的影响,尤其要向日本学习,下决心加强基础设施建设,注重环境保护,努力实现环境与社会经济的协调发展。

中日友谊万岁！

杨卫方
(教员分团)

记忆之中对日本的概念，大多是从书上来的，这其中有着美好的东西，亦有不甚愉快的过去。鲁迅先生笔下的上野的樱花，让我很早就对这个国度怀有一种想亲临其间的欲望。在世纪之末的2000年之夏，我有幸参加了JICA组织的中日青年友好交流计划，成为教育分团中的一员。

在为期近一个月的访问、学习之中，我恍然回首的是，中日两国有着太多相同、相似之处，且不说从人的外相上不可区分，深层次的文化、语言、文字，如果追踪溯源，两国在这些层面上的理念和追求何其接近。

我信奉求同存异的观点，更赞许在此基础上的互相信任、了解和共同进步。我想，中国人民是一个非常友善的族群，而我在日本的经验告诉我，日本人民同样是一个非常善良好客的民族，在日本，我体验到了一种真诚的、来自两国普通老百姓之间的友谊，了解愈深、愈难割舍异国之间朋友的真挚情怀。

作为时代青年的一员，作为中日两国间友谊的使者，在日本一个月的时间里，每到之处，我们不但受到亲人般的礼遇，结交了许多今生难忘的朋友，而且还开阔了眼界，有所裨益。这些可贵的精神财富将伴我今后的人生。我会把日本人民的友谊带回中国，告诉更多的人！

日出之国、东瀛、扶桑之国、一衣带水，多么美好的字眼。中日两国友谊万岁！

三. 参加合宿研讨会的日本青年的感想

中国——友人之邦

松冈 绫
(公司职员)

如果有人问起我关于中国的事情，我将会如何作答呢？

——北京人的清廉爽直、上海人的活跃欢快、中国美食和绍兴酒……

要是在以前，我还会这样回答：“中国是和日本打过仗的国家”。

来自中国的青年们和作为东道主的日本青年们，虽然在经历、年龄、职业上截然不同，但是，我们相识了，我们推心置腹、我们分享友情和关怀。我才蓦然地发现，我不由地发出惊叹：自己原来连大海都不知道。跨越语言的障碍，传递心声。不同的习惯、宽广的胸怀，一切的一切，犹如细沙般地交汇融合，化为一体，心与心渐渐贴近，——这份幸福的感觉。

在水塘里玩耍的我，不知不觉地顺流而下，继而飘浮于大海之中。当我触及到他人的温暖的那一刻，我也感受到了自己的温暖。在众人的温情指引下，终于发现了自己的那一份温存。这一刻令我沉醉于无限幸福的温馨之中，我终于找到了自己喜欢上自己的那一瞬间。

之后，我稍微长大了一些。

然后，现在，如果有人问起我关于中国是什么，我会这样回答——那是爱情之国，友人之邦。

跨越国界的交流

宫崎奈奈子
(团体职员)

在友爱山庄举行的总共有50人参加的合宿研讨会开得既愉快又充实，取得了空前的成功。这令我回想起以前在中国交流时曾有过的某种“跨越国界”的感动。虽说都是国际交流，但前往对方国家去学习不同文化与在自己的国家接待对方、在不同的意义上，都是十分受益非浅的事情。

合宿研讨会的参加者们都各自在力所能及的范围内各尽所能，大家的姿态自然真切，令人感动。在与对方的交往之中，在求同存异的基础上努力去理解对方，这同时也是一次对自己进行再认识的机会，我想这也就是合宿之后有很多人发现“视野宽广了”的原因之所在吧。

也许参加的人越多，我们的感动、新的发现也就越多吧。在篮球比赛中，在众多的“投”“投”声的鼓动之下，当我投出的球一跃入网的一瞬，我真切地感受到尽管语言不通、然而周围所有人的心却都凝聚成了一体。

这次交流不仅仅只是一期一会的记忆，我愿将所有的感动铭刻在心，为发展今后的日中关系而做出努力。

四 民宿主人的感想

初次尝试当民宿主人

佐藤真希
(德岛县)

我10年前去过香港。从那以后，我一直想去中国看看，却一直没有机会。这次，恰逢朋友委托我接待民宿青年，使我如愿以偿，感慨万分。

来我家的青年，他英语、日语说得都有点结结巴巴，可我们总算还能沟通。他跟我们一起去购物，还为我们作了地道的四川菜，我们共同度过了非常愉快的两宿三天。

最盼望民宿青年的要数我儿子，他们俩很快就变得毫无隔阂、亲密无间。他们为了沟通，又是笔谈、又是查字典，费了九牛二虎之力，可却是兴味盎然，不亦乐乎。

相逢的那一刻，我们曾担心往后的3天会很长，然而，回过头来，却发现这段时光是那么短暂，如果有可能的话，真希望能再多留他住几天，这是我们全家的心愿。

我们感谢有关方面人士给予我们的这次机会，也感谢我们与中国青年的邂逅。

谢谢。

感受中国

大概孝子
(群馬县)

我和女儿在前桥的宾馆大厅等待着，心里充满了期待与不安：来我家民宿的将会是一位什么样的中国青年？语言能沟通吗？

周围的民宿家庭与青年分别会面，终于轮到了我们。小陈被介绍给我们，握手寒暄后，紧张顿时烟消云散，气氛变得轻松愉快。

第二天晚上，小陈汗流浹背地给我们剁肉、和面、包饺子，我们也帮忙。我们唱卡拉OK，狂欢大闹，气氛好不热闹。我们用啤酒干了一杯又一杯。我们结下的友情地久天长。

小陈不止一次诚恳地邀请我们到中国去，我们的心也越来越想望中国了。

美妙的邂逅

谷内美江子
(富山县)

虽然心里想着要让李江华先生体验一下我们的日常生活，可还是为具体如何安排好这几天的生活而感到几分踌躇。“吃的方面请别为我费心，我什么都OK！”他的这句话和他那爽快的语气，终于使我放下了心。

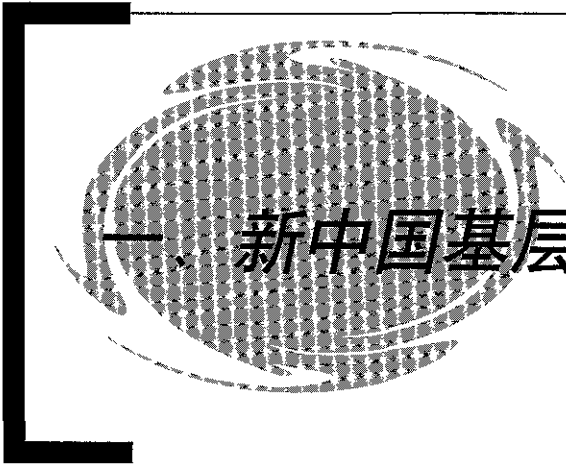
这句话也正反映了他在所有事情上的姿态，也使我们得以彻底安心来与他共同渡过了三天的时光。

他条理清楚地给我们介绍了他所在的海南岛的情况，中国的发展状况，存在的主要问题，政治结构，生活等情况。同时他也向我们提了好多问题。他还就我爱人的工作提了很多详尽周密、充满善意的建议，非常有趣。我们之间并未刻意地去寻找话题，顺其自然，

却谈得情投意合，这令我们全家至今还感叹不已。

两个晚上他都和我爱人谈到半夜，我一边翻译，一边为这段缘分而感到喜悦。

二、新中国基层工作人员邀请计划



一、新中国基层工作人员邀请计划

1-1 概 要

(1) 目 的

“新中国基层工作人员邀请计划”的目的是，通过中日两国基层工作人员的交流，支援中国现代化建设，同时为了面向21世纪确立更加美好的中日合作关系，增进相互之间的理解和信赖。

(2) 实施方法

A 邀请人数

2000年度一次邀请100名青年

B 邀请对象

在以下各领域里从事领导工作的20~35岁的青年

(i) 人材培养 25名

公务员、教员、团体职员、新闻工作者等

(ii) 经济开发 25名

与经济相关的公务员、企业工作人员等

(iii) 地区振兴 25名

省·自治区政府的地区开发方面的有关人员、团体职员等

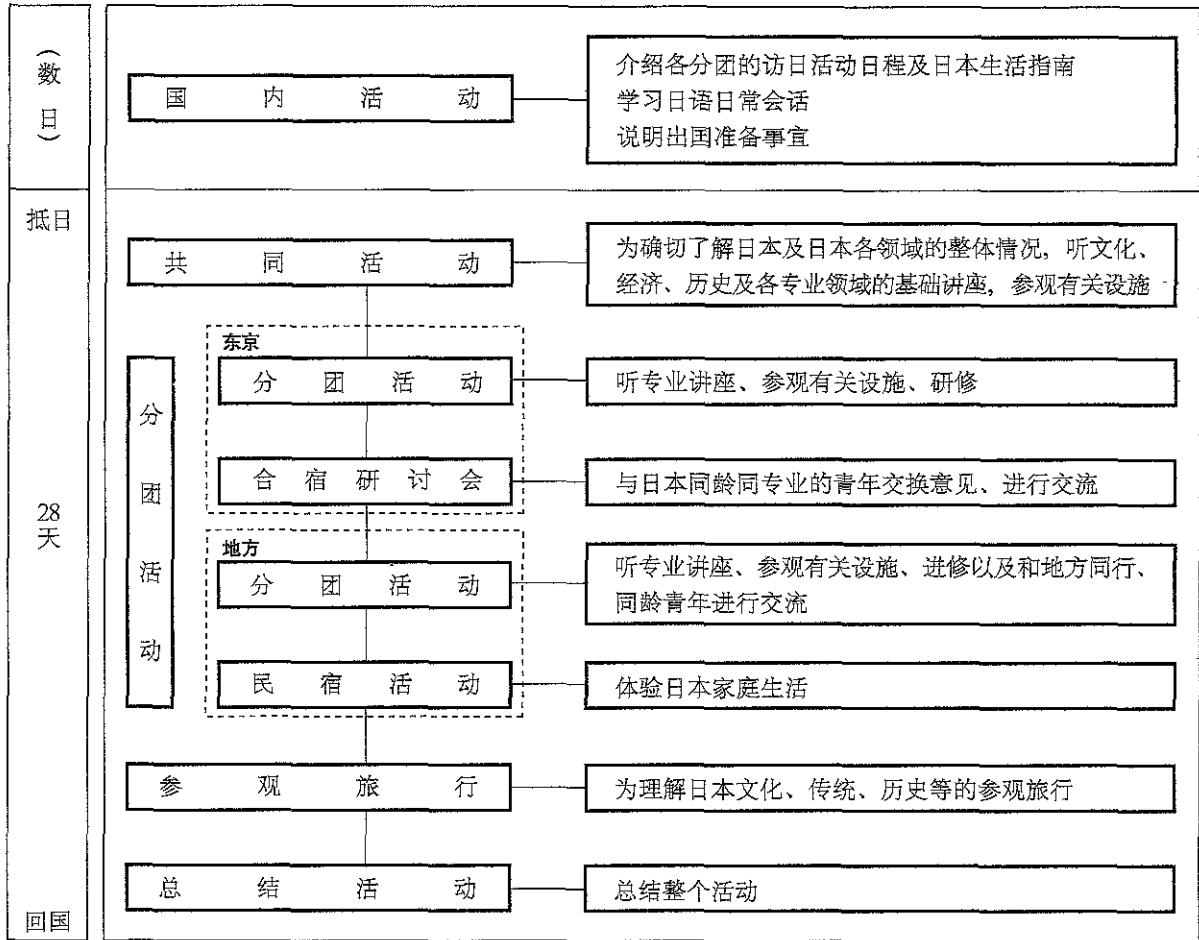
(iv) 产业基础设施建设 25名

国家计划、建设、贸易·财政方面的有关公务员等

C 邀请日期

10月11日~11月7日 28天

(3) 日程概要

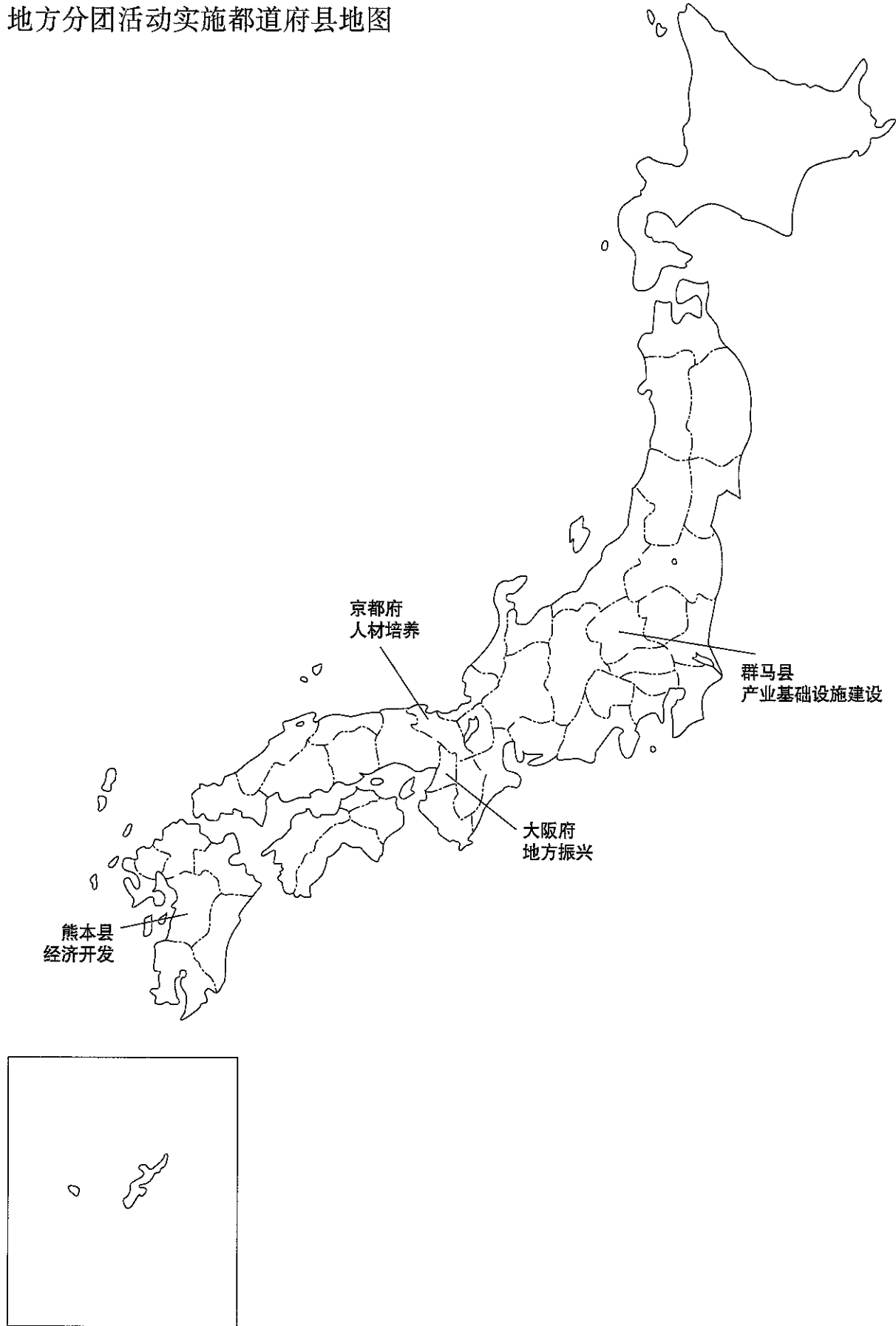


1-2 计划实施情况

分团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
人材培养	25	(财)日本青年旅舍协会	京都	(财)京都青年旅舍协会
经济开发	25	(社)青少年育成国民会议	熊本	熊本县青年海外协力协会
地方振兴	25	(财)青年工作者能力开发协会	大阪	(财)大阪府青少年活动财团
产业基础设施建设	25	(社)国际善邻协会	群馬	群馬县世界青年朋友会

*日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动。

地方分团活动实施都道府县地图



二 应邀青年的感想

加深了解，增进友谊

刘海明

(人才培养分团)

参加此次由JICA实施的中国基层青年工作者访日团人才分团，我觉得有很多收获。通过JICA安排的讲座、参观、合宿及民宿等活动，我对日本的政治、经济、社会等方面的情况有了较全面的感性认识。特别令我感兴趣的是合宿和民宿活动。

与日本青年一起生活、讨论，加深了中日两国青年间的相互了解；与日本普通家庭一起生活，使我了解了日本普通人的日常家庭氛围，知道日本人与中国人一样，也有自己的喜怒哀乐。

尤其令我感动的是，离开京都时有不少民宿家长包括我那位六十九岁的老妈妈赶到车站送行，我的妈妈还专门给我女儿买了礼物。当时的场面让我感到心灵的交流已经超越了语言的障碍。

关于日本经济繁荣的一些思考

周彤

(经济开发分团)

我认为，日本经济繁荣的原因主要有三个：

1.整体国民素质好，民族凝聚力强，受教育程度较高；

2.有一个和平安宁的建设环境，能够抓住有利时机；

3.亚洲地区的发展给日本带来了新的发展活力。

同时，伴随着经济发展也产生了一些人口老龄化、

黑社会等社会问题。特别是有的日本青年不重视继承本民族的传统文化，这不利于日本保持发扬自己特有的文明。而且仍有部分日本妇女只充当家庭主妇角色，并未体现她们对社会应有的贡献，随着社会的进步，妇女地位应当提高。总之，只有妥善处理好上述问题，才能做到经济和社会的同步发展。

徘徊在传统和现代之间的日本年轻人

朱鹰

(地方振兴分团)

日本年轻人的现代和传统都超乎中国青年的想像。在日本街头，要找一个黑头发的年轻人远要比找一个黄头发的年轻人困难得多。日本年轻人几乎没有不染发的，有些年轻人还在鼻子、嘴唇上戴上环子。在原宿街头，脸上画着五颜六色脸谱、穿着鞋跟高得“摇摇欲坠”的年轻人更让中国青年匪夷所思。但是日本青年的敬业和奉献精神也让中国青年深深感动。接待我们的青年工作者能力开发协会的堀添英人年龄虽小，但对每天的活动安排、接待工作都实施得极为周到。在参观国会议事堂后进行午餐时，不知何种原因少了一份午餐，堀添英人为不给别人添麻烦，当即表示不饿，并为此饿了半天，这种默默忍让的精神感动了每一个中国人。日本还有许多青年作为海外协力队员到中国和其他国家义务援助，他们远离家人，到异乡在饮食、住宿、气候等诸多条件都艰苦的情况下，为他人无私奉献自己的青春，使中国青年从他们身上看到了日本青年富有理想的崇高精神。

提高国民素质、重视科技与环保是可持续发展道路的重要保证

靳仪麟

(产业基础设施建设分团)

我的主要感想是，1.日本以教育为本提高国民素质的发展战略取得了显著成效。日本国民人人接受“日本资源贫乏，自然灾害频繁”的教育，培养出日本国民居安思危的忧患意识和勤奋、节约的优秀品质。日本国民的群体团结意识和勤奋敬业精神为日本成为世界第二大经济强国奠定了基础。2.日本重视科技研究和开发，并以实践证明了科技发展是推动经济发展、实现国强民富的第一生产动力。先进的科技应用在人们的生活、生产和企业管理中。3.日本政府制定了一系列配套和行之有效的环保法律、引导国民认识环保的重要性，由政府主导形成积极的全民环保意识。中国正在推行的可持续发展战略就是要处理好发展和环保的关系，日本的成功经验有许多是值得借鉴的。

三 参加合宿研讨会的日本青年的感想

国际交流的出发点

藤平圣一
(公司职员)

我是初次参加合宿研讨会。在2宿3天这一非常有限的时间里，日程安排得丰富多彩，对我来说这是一次非常有意义的体验。

特别是在分组讨论中，我们就环境问题、人口出生率降低、人口老龄化等问题，就两国的实际情况，以及改进方法等进行了富有建设性的讨论，加深了相互理解。

在交流晚会上，我们举杯共饮，促膝畅谈，各展所长，最后我们一起跳起了“早安歌”，载歌载舞，渡过了欢乐美好的时光。

我亲身体会到，合宿研讨会上的语言障碍并没有想像得那么大，尽管语言不通，然而彼此为对方着想的心却是相通的。

合宿研讨会虽已结束，但是这次我们建立起的友谊却还刚刚开始。今后我愿继续通过交流，进一步加深理解。

参加合宿研讨会

津村祐司
(公务员)

我在滋贺县水产试验场从事淡水鱼的利用加工研究和对琵琶湖的定期观测调查工作。这次有机会参加了环境问题的分组讨论。因为不需要自己承担费用，还能有效地利用有薪休假，我报名参加了中国的产业基础建设分团的合宿研讨会。

合宿研讨会于2000年10月20日至22日在神奈川県逗子市举行，为期三天。

第一天的内容是体育交流和联欢晚会，第二天是分组讨论；第三天是分组讨论的内容发表。有关团体为我们准备了美味佳肴，下榻的设施也十分舒适。

我在小组讨论会上介绍了滋贺县的环境问题。因为时间有限，我发表的内容较为精简，尽管如此，中国青年还是充分理解了我介绍的内容。

我对这次合宿研讨会感觉还是很好的。但我要向正在考虑参加合宿研讨会的人提醒一句，这就是。这项事业的费用全部都是由日本国民的税金负担的。

因此，我认为参加合宿研讨会的人员有义务将合宿研讨会的内容办得充实，以令纳税人没有异议。

四. 民宿主人的感想

接待民宿青年

中内美帆
(京都府)

这次在我家民宿的许先生是中国的外交官。过去我家也曾经接待过民宿青年，他们大多是讲英语的，不擅英语的我的家人只好通过我进行会话。然而，这一次能用汉字进行笔谈，我们全家都积极地加入到交流中来，共同分享交流的乐趣。

周六我们一同去了三千院、二条城后，还去了我的茶道老师家，请许先生体验了茶道。我的老师非常喜欢外国人，特地身着和服前来迎接我们。用茶之后，我们还一起合影留念，我的老师也非常高兴。

第二天父母和姐姐陪同许先生去了太秦电影村。听说许先生很喜欢日本的古老街道。

虽然时间短暂，但是我们发现了中国和日本之间的一些似相同却截然不同的地方，一起渡过了美好的时光。我的弟弟很喜欢中国历史，他也很高兴。

和许先生一起外出时，他总是不忘关心我的家人，非常会体贴人，我希望有一天能再见到他。

第一次体验

K.T
(熊本县)

曹小姐和我都会英文，我们之间的会话可谓畅通无阻。可是首次接待民宿青年，又对英语一窍不通、不太习惯接触外国人的父母，却显得有点不知所措。可他们还是打着手势，比划着，一副乐不可支的样子。和曹小姐一起渡过的时光真是很愉快，又使我学到了不少东西。我在大学里学的是经济开发、人口论，我对中国的经济开发自然也就非常有兴趣，我向她提了一个又一个问题。她对我提的问题都作了详细而又恰到好处的好处回答。我们俩就经济、政治、文化等各种各样的问题进行了探讨，非常有意义。

第一天我们带她到玉东町的桔子山，还参观了我父亲经营的公司。第二天上午我们去了玉名市的连华院，下午去了天草。晚上，我们在三角西港一家优雅的餐厅共进晚餐。我们运气真好，很幸运地看到了海豚。入夜，我们又去了大型电器商店，玩得很尽兴。最后一天我们去了玉名市的白鹭庄，参观了日本的婚礼。我们参观了神殿、基督教礼拜堂、举行婚礼的会场，还实地参观了婚礼。我真后悔没把日本的文化学得更详尽一些，好为她作更详尽的说明。

短短三天，我们并没有刻意地将日本文化灌输给她，而是顺其自然，让她体验真实的日本生活。这段生活，不仅对曹小姐是一次国际交流的机会，而她的到来令我们全家也都受益匪浅。

曹小姐和我有一个共同的认识，这就是，“通过自己的实际体会去认识一个国家和这个国家的人。”我想正是因为有着这一共识，所以这三天才过得如此顺利。最后，我想向三天中给予我们帮助、关照的各位、向我的双亲、向JICA的各位道一声：“谢谢。”

我家的国际交流

井场伸行

(大阪府)

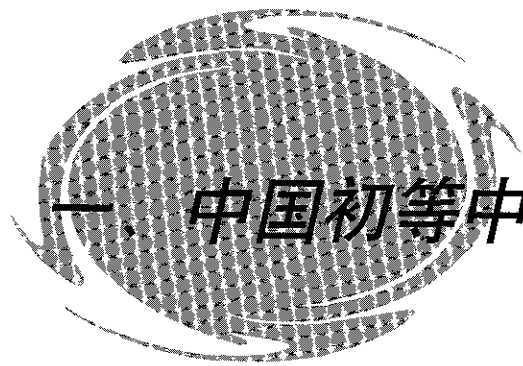
我家住在大阪市内的新兴城区，我们家是我们夫妻加上两个小孩的四口之家。听说我家的客人是一位外交官，我们略带着紧张的心情迎来了我们的客人。

可是，我们的客人孙女士是个非常爽朗、温和的人，她会说日语、访日经验也十分丰富。我们可以自由自在地交谈双方国家的文化、各种习俗，我们让她体验我们平常的生活。

这期间由于天气不佳，加上她也没有想去观光的愿望，我们在家的时间就比较长，这正好有利于我们之间增进相互理解。

晚上，大家围着火锅，畅谈双方国家的教育情况，我们共同渡过了话题丰富、愉快的三天时间。孩子们自然也是高兴无比。

三、中国初等中等青年教员邀请计划



一、中国初等中等青年教员邀请计划

1-1 概 要

(1) 目 的

“中国初等中等青年教员邀请计划”的目的是，为了面向21世纪，通过中日两国初等中等教育机关和教员的交流，进一步促进青少年之间的交流，增进相互之间的理解和信赖。

(2) 实施方法

A 邀请人数

2000年度一次邀请120名青年

B 邀请对象

在以下各领域里从事领导工作的20~35岁的青年

(i) 小学教员 48名

(ii) 中学教员 24名

(iii) 高中教员 24名

(iv) 教员 24名

C 邀请日期

11月26日~12月16日 21天

(3) 日程概要

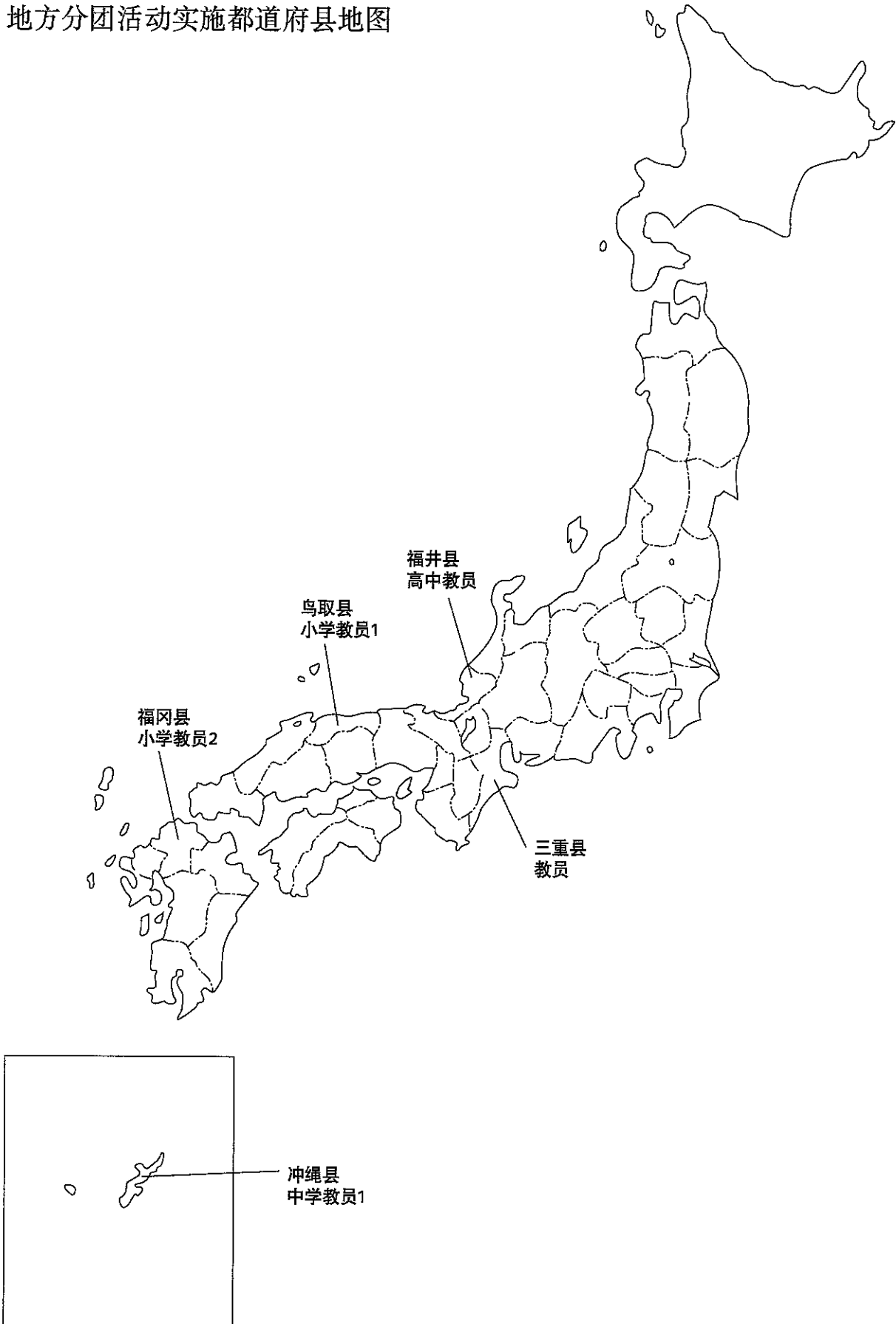
(数日)	国内活动	介绍各分团的访日活动日程及日本生活指南 学习日语日常会话 说明出国准备事宜	
	抵日	共同活动	为确切了解日本及日本各领域的整体情况，听文化、经济、历史及各专业领域的基础讲座，参观有关设施
21天	分团活动	东京 分团活动	听专业讲座、参观有关设施、研修
		合宿研讨会	与日本同龄同专业的青年交换意见、进行交流
		地方 分团活动	听专业讲座、参观有关设施、进修以及和地方同行、同龄青年进行交流
		民宿活动	体验日本家庭生活
回国	参观旅行	为理解日本文化、传统、历史等的参观旅行	
	总结活动	总结整个活动	

1-2 计划实施情况

分团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
中学教员1	24	(社)青少年育成国民会议	冲绳	(社)冲绳县青少年育成年民会议
高中教员	24	(财)世界青少年交流协会	福井	鯖江市国际交流协会
小学教员1	24	(社)勤劳厚生协会	鸟取	鸟取青友会
小学教员2	24	(财)日本青年旅舍协会	福冈	福冈县海外青年招聘事业实行委员会
教员	24	(社)日本中国友好协会	三重	(财)三重县国际交流财团

*日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动。

地方分团活动实施都道府县地图



二、应邀青年的感想

这是一个了不起的民族，他们深知，只有调动每个人去全力工作，并能居安思危，社会才会永远进步。

访日随感

彭 晓
(中学教员1分团)

我们对日本的总体感受是：1.富裕。日本经济发达，自动化程度高，国民受教育的程度较高。2.井然有序。日方有关人员将我们的活动安排得紧凑有序，预先将时间安排落实到每一分钟上，实在不易。3.安静。4.干净。

在教育方面，日本重视学科的融合和技术教育，重视残疾儿童的教育，这是值得我们学习的。而中国重视基础知识和基本技能的落实，或许也是值得日本学习的。此外，虽然中国教师的经济地位不如日本教师，但我们受到全社会的尊重，对此，我们深感自豪。

日本人的均一意识和忧患意识

冯志刚
(高中教员分团)

访日之前，对日本的了解是零星的、肤浅的。三周时间的访问，接触了不同层面的日本朋友，才对日本有了较深刻的了解。

强调均一性，调动每一个人的做好身边每一件事的积极性，力求克服惰性或许是日本教育最成功的地方。正是由于有这样的教育，日本的经济快速发展了，日本国民开始有了自豪感，有了追求卓越意识和动力了。也许，正是因为这种意识，并深知现有条件的来之不易，绝大部分中老年人具有极强的忧患意识。

日本教育的启示

陈轶娟
(小学教员1分团)

二十一天紧张而充实的教育交流即将结束，感受最深的是日本政府对教育的投入不遗余力。选拔教师严格而科学，要求教师必须不断参加各种研修，又最大限度地挖掘其潜力，因而建立了一支高素质的教师队伍，为日本走向教育兴国之路奠定了坚实的基础。大力支持学校基本建设，无论城市乡村，学校的环境都很优美，设备也很先进，为学生营造了一个优越的学习环境。对出现的“少子化（人口出生率降低）”、“欺负”等现象十分重视，深入研究，采取措施，及时解决，为我们提供了宝贵经验。

“学校诚为天下国家之命脉。”愿两国同仁为共同的事业倾尽毕生心血。

随感小记

王文丽
(小学教员2分团)

二十一天的研修活动使我有机会认识日本、了解日本。日本历史文化灿烂、科学技术发达、人民朴实热情，都给我留下了难以磨灭的印象。最使我难忘的是与日本青年合宿的日子。我们一同泡温泉、做游戏、唱歌跳舞、饮酒聊天，我们用眼神、微笑、手势来传递心中的情感。我从中深深地体会到，“人民的感情是朴素的，朴素的东西是最美的。”我希望世界各国

的青年都能够携起友谊之手，让世界的每一个角落都充溢着和平的阳光。二十一世纪的世界繁荣应该是属于亚洲的，中日青年应率先垂范，共同架起一座友谊、进步、和平、发展的桥梁。

增进了解、加强友谊、面向二十一世纪

马辉平

(教员分团)

相互理解、相互信赖、相互学习、增进友谊、共同发展，是我们共同的心愿。日本有着自然美丽的国土和各种各样的传统。这次通过参观、访问、合宿、讨论、民宿等形式，我们不但了解了日本的教育现状，也增进了日本人对中国改革开放的理解。同时，日本的现代化教学设施和先进的残疾人学校教育也给我们留下了深刻的印象。而日本学校的技术实践教育、生存教育和剑道等民族传统体育等教育，也值得我们学习借鉴。虽然在某些方面也存在着各种差异，但我们都必须面向二十一世纪，为世界的和平发展、为科学进步培养人才。为中日两国人民的友谊和文化交流作出贡献!

三 参加合宿研讨会的日本青年的感想

爽朗的中国青年

真锅澄子
(教员)

在一片“分不清谁是中国人、谁是日本人”的声音之中，我们宛如旧友重逢，在欢迎会上共同进餐。

仅仅靠一些不完整的中文、英文、日文，瞬间，我们的圈子扩大了。

中国青年比我想像得还要友好。很快地，我们就打成了一片。在我们秘密为他们准备生日的派对上，他们表达了“如同在自己的祖国一样”的感受，令人感到欣慰。

作为邻国的中国教师对整个日本的教育充满着强烈的求知欲，他们的提问得很详细，使人感受到他们想充分利用这次活动的机会来学习和进取的满腔热情。

望着他们在讨论会上聚精会神地作记录的神情，不难看出，他们一定会精心培养出肩负着富强中国的明天的孩子们的。

参加高中教员分团的合宿研讨会

横堀新一
(教员)

参加合宿研讨会最大的感触就是中国青年非常有活力。从“教育兴国”这一角度，就足以感觉到中国一定会大有发展前途。参加合宿研讨会的青年们的认真的态度、真挚的行为举止是我所未意料到的，我从他们身上看到了他们为振兴祖国而像海绵吸水一样汲取知识的姿态。

人与人之间只要有逾越语言障碍、构筑新关系的姿态，就一定能创造美好的未来。所以，我认为共同担负着培育下一代重任的两国青年，能够如此坦诚地交换意见，其意义尤为深远。

我在深切地体会到了加强中文学习，用中文交流的必要性的同时，也认识到了加强对中国的学习和了解的重要性。

参加合宿研讨会

大平真史
(公务员)

在和谐的气氛中，联欢晚会的会场上回荡着清脆悦耳的歌声。日中两国的教员们共唱一曲“花心”。这歌声，正是这次充实的合宿研讨会的一个写照。

参加合宿研讨会之前，我查阅了最近的中国教育改革的资料，了解到旨在克服偏重升学教育的中国教育改革，与面临众多孩子逃避学习状况的日本教育改革有着惊人的异曲同工之处。分组讨论会上，我们就这些共同课题，倾吐衷肠。只觉得预定的时间实在太短。其中，中国教师的“教师这一职业是最灿烂、最有意义的工作。”这一充满信心的肺腑之言，给我们所有参加研讨会的日本青年带来了鼓舞和自豪感。我真切地感到，过去感觉很遥远的中国一下子变得邻近而又亲切。

我衷心地感谢为向我们提供这一宝贵机会的国际协力事业团和勤劳厚生协会的各位。

谢谢!

四. 民宿主人的感想

我们同是亚洲的伙伴

服部优子
(福冈县)

接待民宿青年这已是第几次了？

“他会是位什么样的青年呢？”我们全家上下欢喜雀跃，女儿们忙着又是准备欢迎标语，又是制作礼物，个个神采飞扬。

来自中国的王老师，和我爱人一样，也是一位小学教师。他在我家民宿期间，我们通过笔谈对教育进行了交流。此外，还通过体验“福冈历史之城”这一活动，共同学习了从中国传来的日本的文化。

泰国朋友们也来到我家，我们互相传授中国、泰国、日本菜的作法，开了个盛大的聚餐会。

时间虽然短暂，我们却一见如故。

我们同是亚洲的伙伴。分别的滋味很苦涩，我们相约下次在王老师的国度、中国重逢！我们将太多的记忆刻在了心头。

我们将辛勤工作，期待着重逢的一刻。

心与心的交融

向井典子
(三重县)

我们全家虽说对中文一窍不通，可我们还是接受鲍先生来我家民宿，一起度过了一段非常快乐的时光，我们都为此感到无比高兴。

他正是我们期待之中的那种好青年，我们双方都相互体谅，心心相通，意外的是，我们一家都没有紧张的感觉，轻轻松松地接待了他。

他的年龄、家庭结构与我们的都很相近，加上他是一位计算机教师，我们谈得非常投机，我们的谈话时而产生共鸣，时而我们也对中国的先进事物感到吃惊。就这样，我们谈得兴致勃勃，中国一下子变得离我们好近。

我们交流的手段只是只言片语的英语再加上笔谈，虽然语言勾通并不十分通畅，然而，只要有为对方设身处地着想、愿意理解对方的一颗心，即使生活环境截然不同，心与心则是完全可以相通的。我们能切身感受到这一点，完全得益于这次可贵的体验。

我们一定会把这段缘分好好珍惜下去。

实施情况等资料

1. 迄今为止实施的青年邀请计划一览表

(1) 新中日青年友谊计划

●1996年度（100名）

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	25	(财)日本青年旅舍协会	宫 城	宫城县青年旅舍协会
经 济	25	(社)日本经济青年协议会	长 崎	长崎县世界青年友好之会
公 务 员	25	(财)青年工作者能力开发协会	福 井	武生市国际交流协会
教 员	25	(财)日本国际协力中心	兵 库	(财)兵库县青少年本部

●1997年度（100名）

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	25	(财)日本青年旅舍协会	宫 城	宫城县青年旅舍协会
经 济	25	(社)日本经济青年协议会	德 岛	德岛县日中青年交流协会
公 务 员	25	(财)青年工作者能力开发协会	岩 手	(财)岩手县国际交流协会
教 员	25	(社)国际交流服务协会	栃 木	(财)栃木县青年会馆

●1998年度（100名）

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	25	(社)青少年育成国民会议	冲 绳	(社)冲绳县青少年育成年民会议
经 济	25	(财)青年工作者能力开发协会	石 川	小松市国际交流协会
公 务 员	25	(财)世界青少年交流协会	德 岛	德岛县日中青年交流协会
教 员	25	(社)国际交流服务协会	富 山	(财)富山国际中心

●1999年度（100名）

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	25	(社)青少年育成国民会议	大 阪	(财)大阪府青少年活动财团
经 济	25	(财)青年工作者能力开发协会	富 山	(财)富山国际中心
公 务 员	25	(财)日本青年旅舍协会	三 重	(财)三重县国际交流财团
教 员	25	(财)日本友爱青年协会	德 岛	德岛县青年海外派遣之会

●2000年度（100名）

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	25	(社)青少年育成国民会议	德 岛	德岛县日中青年交流协会
经济青年	25	(社)国际善邻协会	群 马	(财)群馬县国际交流协会
公 务 员	25	(财)青年工作者能力开发协会	富 山	(财)富山国际中心
教 员	25	(财)日本友爱青年协会	高 知	高知希望工程基金会

※日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动。

(2) 新中国基层工作人员邀请计划

●1996年度（100名）

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
产业基础设施建设	25	(财)世界青少年交流协会	山 口	世界青年德山朋友之会
经济开发	25	(社)勤劳厚生协会	栃 木	栃木县外国青年邀请事业实行委员会
地区振兴	25	(财)日本国际协力中心	鸟 取	鸟取青友会
人材培养	25	(社)青年海外协力协会	冲 绳	(社)冲绳县青少年育成县民会议

●1997年度（100名）

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
产业基础设施建设	25	(财)世界青少年交流协会	兵 库	(财)兵库县青少年本部
经济开发	25	(社)勤劳厚生协会	鸟 取	鸟取青友会
地区振兴	25	(社)青年海外协力协会	北 海 道	十胜国际协会
人材培养	25	(财)青年工作者能力开发协会	冲 绳	(社)冲绳县青少年育成县民会议

●1998年度（100名）

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
产业基础设施建设	25	(财)日本国际协力中心	冈 山	(财)冈山县国际交流协会
经济开发	25	(社)勤劳厚生协会	三 重	(财)三重县国际交流财团
地区振兴	25	(财)世界青少年交流协会	长 崎	长崎县世界青年朋友会
人材培养	25	(财)青年工作者能力开发协会	北 海 道	十胜国际协会

●1999年度（100名）

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
人材培养	25	(社)青少年育成国民会议	石 川	(财)石川县青年旅舍协会
经济开发	25	(社)勤劳厚生协会	大 阪	(财)太平洋人材交流中心
地区振兴	25	(财)青年工作者能力开发协会	德 岛	德岛日中青年交流协会
产业基础设施建设	25	(社)国际善邻协会	滋 贺	滋贺县青年团体联合会

●2000年度（100名）

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
人材培养	25	(财)日本青年旅舍协会	京 都	(财)京都青年旅舍协会
经济开发	25	(社)青少年育成国民会议	熊 本	熊本县青年海外协力协会
地方振兴	25	(财)青年工作者能力开发协会	大 阪	(财)大阪府青少年活动财团
产业基础设施建设	25	(社)国际善邻协会	群 马	群馬县世界青年朋友会

※日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动。

(3) 中国初等中等青年教员邀请计划

● 1999年度 (120名)

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
小学教员1	24	(社)勤劳厚生协会	鸟 取	鸟取青友会
小学教员2	24	(财)日本青年旅舍协会	宫 城	宫城县青年旅舍协会
中学教员	24	(社)青少年育成国民会议	冲 绳	(社)冲绳县青少年育成县民会议
高中教员1	24	(社)青年海外协力协会	爱 媛	爱媛县青年海外协力协会
高中教员2	24	(财)世界青少年交流协会	长 崎	长崎县世界青年友好之会

● 2000年度 (120名)

分 团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
中学教员1	24	(社)青少年育成国民会议	冲 绳	(社)冲绳县青少年育成县民会议
高中教员	24	(财)世界青少年交流协会	福 井	鯖江市国际交流协会
小学教员1	24	(社)勤劳厚生协会	鸟 取	鸟取青友会
小学教员2	24	(财)日本青年旅舍协会	福 冈	福冈县海外青年招聘事业实行委员会
教 员	24	(社)日本中国友好协会	三 重	(财)三重县国际交流财团

※日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动。

2. 2000年度青年邀请计划实施情况一览表

邀请日期	国家	领域	人数	实施协助团体	实施都道府县
5月10日 ┆ 6月6日 第1批 74名	菲律宾 菲律宾 菲律宾	教员（理数科教育） 农业（水产业） 中小企业经营	23 23 28	(财)世界青少年交流协会 日本青年团协议会 (社)勤劳厚生协会	长野 媛 山梨
5月17日 ┆ 6月13日 第2批 100名	中国 中国 中国 中国	青年工作者 经济青年 公务员 教员	25 25 25 25	(社)青少年育成国民会议 (社)国际善邻协会 (财)青年工作者能力开发协会 (财)日本友爱青年协会	德岛 群马 富山 高知
5月17日 ┆ 6月13日 第3批 88名	巴布亚新几内亚 巴布亚新几内亚 太平洋多国团 太平洋多国团	教育（初等教育） 地方开发（经济） 社会开发（教育） 经济开发 环境保护	15 15 23 19 16	(社)国际交流服务协会 (财)世界青少年交流协会 (社)日本经济青年协会 (财)日本青年旅舍协会 (社)青年海外协力协会	石川 静冈 冈山 石川 岛根
5月24日 ┆ 6月20日 第4批 88名	越南 越南 印度尼西亚 印度尼西亚	教育 公务员 教员（理数科教育） 农业（水产业）	22 21 23 22	(财)青年工作者能力开发协会 (财)日本青年旅舍协会 (社)勤劳厚生协会 (社)青年海外协力协会	宫崎 城崎 群马 山形
5月31日 ┆ 6月27日 第5批 69名	泰国 泰国 泰国	中小企业经营 教员（小学教员） 农业（水产业）	23 23 23	(社)勤劳厚生协会 (财)日本国际协力中心 (社)日本经济青年协议会	北海道 香川 大分
6月7日 ┆ 7月4日 第6批 50名	孟加拉国 柬埔寨 柬埔寨	教育（中等理数科教员） 农业（流通） 公务员（行政改革）	20 15 15	(社)驹根青年会议所 (社)青少年育成国民会议 (社)日本经济青年协议会	长野 北海道 广岛
6月21日 ┆ 7月18日 第7批 82名	东盟多国团 东盟多国团 东盟多国团	教育行政 保健卫生（保健医） 社会福利（儿童青年福利）	26 28 28	(社)日本国际生活体验协会 (财)国际看护交流协会 (财)札幌国际广场	岐阜 长野 北海道
7月5日 ┆ 8月1日 第8批 90名	韩国 韩国 韩国 韩国	青年工作者、公务员 青年职工（技术人员） 教员（弱智学校） 学生（理工科）	23 21 22 24	(社)日本经济青年协议会 (财)日本青年旅舍协会 (社)国际交流服务协会 (财)世界青少年交流协会	长崎 德岛 埼玉 滋贺
7月12日 ┆ 8月8日 第9批 84名	菲律宾 菲律宾 越南 越南	行政（中央行政） 地方振兴 经济 农业	20 21 22 21	(财)世界青少年交流协会 (社)勤劳厚生协会 (财)青年工作者能力开发协会 (社)青年海外协力协会	新潟 山口 大阪 茨城
7月12日 ┆ 8月8日 第10批 46名	泰国 泰国	行政（中央行政） 地方振兴（地方社会开发）	23 23	(财)日本国际协力中心 (社)勤劳厚生协会	北海道 爱知
8月16日 ┆ 9月12日 第11批 66名	老挝 马来西亚 马来西亚	地方开发 行政（中央行政） 农业（水产业）	20 25 21	(财)岩手县国际交流协会 (财)日本国际协力中心 (社)青年海外协力协会	岩手 青森 鹿儿岛
8月16日 ┆ 9月12日 第12批 72名	巴基斯坦 东盟多国团 东盟多国团	医疗（医师） 经济（贸易） 科学技术	20 28 24	(财)国际看护交流协会 (社)青少年育成国民会议 (财)丰川市国际交流协会	香川 福冈 爱知
8月23日 ┆ 9月19日 第13批 52名	东盟多国团 东盟多国团	环境保护（自然环境保护） 公共、公益事业（通信）	28 24	铁路市海外青年招聘事业实行委员会 (社)国际交流服务协会	北海道 富山

邀请日期	国家	领域	人数	实施协助团体	实施都道府县
10月11日 11月7日 第14批 100名	中国 中国 中国 中国	人才培养 经济开发 地方振兴 产业基础设施建设	25 25 25 25	(财)日本青年旅舍协会 (社)青少年育成国民会议 (财)青年工作者能力开发协会 (社)国际善邻协会	京 都 熊 本 大 阪 群 马
10月25日 11月21日 第15批 40名	缅甸 沙特阿拉伯	教育 教员(小中高教员)	20 20	(社)日本国际生活体验协会 (社)青年海外协力协会	冈 山 栃 木
11月8日 12月5日 第16批 59名	斯里兰卡 不丹、马尔代夫 尼泊尔 印度	教育(小中高教员) 教育(小中高教员) 教育(社会科教员) 教员(理数科教员)	10 9 10 30	(财)日本青年旅舍协会 (财)爱知县国际交流协会 (社)国际交流服务协会 (财)世界青少年交流协会	静 冈 爱 知 佐 贺 山 口
11月23日 12月20日 第17批 61名	非洲 法语国家分团 法语国家分团 法语国家分团	女教员 理数科教员 保健卫生	19 20 22	(财)世界青少年交流协会 (社)日本经济青年协议会 (财)大阪国际交流财团	和歌山 冈 山 大 阪
11月26日 12月16日 第18批 120名	中国 中国 中国 中国 中国	中学教员1 高中教员 小学教员1 小学教员2 教员	24 24 24 24 24	(社)青少年育成国民会议 (财)世界青少年交流协会 (社)勤劳厚生协会 (财)日本青年旅舍协会 (社)日本中国友好协会	冲 绳 福 井 鸟 取 福 冈 三 重
1月10日 2月6日 第19批 71名	印度尼西亚 印度尼西亚 印度尼西亚	中小企业经营 行政 地方振兴	24 23 24	(财)日本青年旅舍协会 (财)日本国际协力中心 (社)青年海外协力协会	福 岛 奈 良 北 海 道
1月18日 2月14日 第20批 99名	中亚洲多国团 高加索多国团 蒙古 中南美多国团(英语) 中南美多国团(西班牙语)	经济 经济 地方行政官 社会福利 小中学教员	24 15 10 20 30	(社)青少年育成国民会议 (财)日本青年旅舍协会 (财)世界青少年交流协会 (社)日本国际生活体验协会 (社)青年海外协力协会	北 海 道 大 阪 福 井 冲 绳 福 冈
1月18日 2月14日 第21批 72名	马来西亚 马来西亚 马来西亚	中小企业经营 教员(理数科教育) 地方振兴	25 25 22	(社)勤劳厚生协会 (社)国际交流服务协会 (社)日本经济青年协议会	千 叶 兵 库 广 岛
1月24日 2月20日 第22批 75名	非洲 (英语国家分团) (英语国家分团) (英语国家分团)	女教员 理数科教员 保健卫生	25 27 23	(财)世界青少年交流协会 (社)青少年育成国民会议 (社)青年海外协力协会	福 岛 京 都 爱 媛
合计	75个分团 115个国家及地区 1,658名	柬埔寨(40名), 印度尼西亚(151名), 老挝(30名), 马来西亚(153名), 缅甸(30名), 菲律宾(150名), 泰国(150名), 越南(100名), 东蒂汶(2名), 太平洋14国家及地区(88名), 中国(320名), 韩国(90名), 西南亚洲7国(99名), 蒙古(10名), 非洲42国(136名), 中南美31国(50名), 沙特阿拉伯(20名), 中亚洲(24名), 高加索3国(15名)			

青年招へい事業 一中国一 [交流レポート] (2000)

平成13年3月31日

発行 国際協力事業団国内事業部研修業務課

〒151-8558 東京都渋谷区代々木2丁目1-1

新宿マインズタワー

電話 (03)5352-5401～3

編集 (財)日本国際協力センター国際交流部

〒163-0489 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビル

電話 (03)5322-2571

無断転載を禁じます。

